

## 階層別選択研修（共同）

研修名	中級【コミュニケーション分野】	受講者の声		
	プレゼンテーション研修 ～口頭・書面・パワーポイントの3領域から～		資料作成のコツを教えてもらった上で実際にプレゼン資料を作り、自分で発表するだけでなく、他の受講者の発表も聴くことで様々な方法を知ることができました。	
講師	オフィスJ. コーポレーション むらせ じゅん 村瀬 順	実施日数・期間	2日間	
		手法	オンライン研修	
		会場	各所属ほか	
		市町村研修コード	211～214	
ねらい	対面でもオンラインでも聞き手が理解できる「伝わる」プレゼンテーションを行い、期待する意思決定を促すために必要な能力を身に付けます。具体的には、「効果的で説得力のある話し方」や、一読で全体像を把握できる「1枚型の企画説明資料の作り方」、さらにDXが推進される現代における「課題解決型提案のパワーポイントによるスライド化」など、口頭・書面・パワーポイントの3領域におけるプレゼンテーションのポイントをオンラインで学びます。			
対象者	<b>【県】</b> 次のいずれかに該当する職員 ・令和2年4月1日以前に採用された主事・技師・主任級の職員 ・令和4年4月1日以前に採用された主事・技師・主任級の職員で、令和5年4月1日現在25歳以上の職員 <b>【市町村】</b> 主任級以下の職員			
実施日	① 7/20(木)・7/21(金) ② 8/ 3(木)・ 8/ 4(金) ③ 9/26(火)・9/27(水) ④10/24(火)・10/25(水)			
予定人員	県100人・市町村60人（各回 県25人・市町村15人）			
学 習 計 画				
日程	カリキュラム	時間数		内 容
		時	分	
1日 9:00 ～ 16:30	基礎講義  プレゼンテーションの大原則  効果的な話の組み立て （説明能力向上のポイント）  口頭プレゼンテーション演習  政策プレゼンテーションのポイント  説明資料におけるグラフ、図表類の活用の仕方  事業案を文書化する際の筋道 （パワーポイントスライド作成にも通じる1枚型説明資料作成のポイント）	6	30	・プレゼンテーションと説明責任  ・レディネスの把握、情報の視覚化  ・SDS法とWhole-Part法、話のスピード  ・住民説明会を意識した3分間の口頭プレゼンテーション練習  ・政策の計算式、ネガティブの解消型とポジティブの拡大型、原因と対策をつなぐ糸  ・横棒と縦棒、円グラフと帯グラフの使い分け  ・リードの役割、AIDMAの法則、視線誘導

<p>2日 9:00 ～ 16:30</p>	<p>パワーポイントによる資料作成とオンラインプレゼンテーションの留意点</p> <p>パワーポイントによるプレゼンテーション演習</p> <p>研修総括</p>	<p>6 30</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1枚のスライドの平均説明時間</li> <li>・ アニメーションの考え方</li> <li>・ デザイン・配色に凝るなら内容に凝れ</li>   <li>・ パワーポイントによる説明用スライドの作成</li> <li>・ 作成した説明用スライドを用いたプレゼンテーション練習（Zoomの画面共有を使用）</li>   <li>・ 質疑応答・講評</li> </ul>
<p>特記事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事前課題があります。</li> <li>・ 事前課題を基に企画説明資料を作成し、プレゼンテーション演習を行います。</li> <li>・ <u>研修受講に当たっては、パワーポイントの基礎を理解しておくことが必要です。</u></li> <li>・ <u>パワーポイントを使用できるパソコンを受講生1人につき1台、必ず御用意ください。</u></li> <li>・ 県職員：人事委員会事務局が実施する主査級昇任試験の受験要件となる選択研修です。 県職員のみ受講後は研修効果確認レポートの提出が必要です。</li> </ul>		

## 階層別選択研修（共同）

研修名	中級【コミュニケーション分野】	受講者の声		
	自己表現力向上研修 ～アサーティブ・トレーニング～	自己のコミュニケーションについて客観的に見直す契機となり、今後の業務におけるコミュニケーションについても改善すべき点が見つかったため、非常に有意義な研修となりました。		
講師	(株) マネジメントサポート 出川 景子 <small>でがわ けいこ</small>	実施日数・時間	2日間	
		手法	通所研修	
		会場	自治人材開発センター	
		市町村研修コード	215～216	
ねらい	アサーティブの理論と技法（相手の立場を理解しつつ、自分の要望や提案を率直に、誠実に伝え、問題の解決を図っていく実践的なコミュニケーションの力、対人関係スキル）を学び、「率直に話し合いのできる関係づくり」ができる力を身に付けます。			
対象者	<b>【県】</b> 次のいずれかに該当する職員 ・令和2年4月1日以前に採用された主事・技師・主任級の職員 ・令和4年4月1日以前に採用された主事・技師・主任級の職員で、令和5年4月1日現在25歳以上の職員 <b>【市町村】</b> 主任級以下の職員			
実施日	① 7/20(木)・7/21(金) ② 9/7(木)・9/8(金)			
予定人員	県30人・市町村30人（各回 県15人・市町村15人）			
学 習 計 画				
日程	カリキュラム	時間数		内 容
		時	分	
1日 9:00 ～ 16:30	自己のコミュニケーションの傾向を知る  コミュニケーションを豊かにする「話す力」  コミュニケーションを豊かにする「聴く力」	6	30	・交流分析による自己理解 ・期待に応えるための行動変容  ・わかりやすく説得力のある話し方 ・相手の理解と共感を得るための話法  ・積極的傾聴の意義と効果 ・質問話法の種類と実際
2日 9:00 ～ 16:30	アサーティブコミュニケーションの意義と効果  アサーティブコミュニケーション実践 （自己表現編）  （他者受容編）	6	30	・3つのコミュニケーションスタイル ・職場でどう活かすか  ・自分の意思の確立 ・自分の意思の表明  ・他者の尊重 ・協働作業としての会話展開
特記事項	・県職員：人事委員会事務局が実施する主査級昇任試験の受験要件となる選択研修です。県職員のみ受講後は研修効果確認レポートの提出が必要です。			

## 階層別選択研修（共同）

研修名	中級【コミュニケーション分野】	受講者の声		
		<b>チームを支える！自分力向上 ～セルフエンパワーメント～</b>	組織活動の中で主体性をいかに発揮させることが大事なのか理解することができました。仕事をする上でこれから自分が改善したほうがいいこと、参考にしたいことが多くあり自分の成長に繋がる研修でした。	
講師	(株) T A S  <small>たかみ ちづる</small> <b>高見 千鶴</b>	実施日数・時間	2日間	
		手法	通所研修	
		会場	自治人材開発センター	
		市町村研修コード	217～219	
ねらい	上司の考えや組織の役割を理解した上で、チームの一員として、組織を主体的・自主的に支えるような行動力について学びます。			
対象者	<b>【県】 次のいずれかに該当する職員</b> ・令和2年4月1日以前に採用された主事・技師・主任級の職員 ・令和4年4月1日以前に採用された主事・技師・主任級の職員で、令和5年4月1日現在25歳以上の職員 <b>【市町村】 主任級以下の職員</b>			
実施日	① 8/31(木)・9/1(金) ② 10/23(月)・10/24(火) ③ 11/30(木)・12/1(金)			
予定人員	県60人・市町村60人（各回 県20人・市町村20人）			
学 習 計 画				
日程	カリキュラム	時間数		内 容
		時	分	
1日 9:00 ～ 16:30	セルフエンパワーメントとは  主体性を高めるための自己理解  組織・上司からの期待の再確認	6	30	・セルフエンパワーメントの理解 ・チームを支える自分力の理解 ・自分の強み、弱みを知る ・自らの意欲や能力を高める考え方を知る ・組織からの期待を再確認する ・上司からの期待を理解する
2日 9:00 ～ 16:30	チームを支える問題発見力  チームを支える協働力とフォローシップ力  チームを支えるコミュニケーション力  まとめ	6	30	・仕事で感じている問題の共有 ・問題と主体的に向き合い、解決策を考える  ・チームの現状把握 ・チームメンバーの良い点の見える化 ・自分ができるチームや他者への貢献  ・アイデアを引き出すコミュニケーションカトレーニング  ・行動目標と行動計画作成
特記事項	・事前課題があります。 ・県職員：人事委員会事務局が実施する主査級昇任試験の受験要件となる選択研修です。県職員のみ受講後は研修効果確認レポートの提出が必要です。			

## 階層別選択研修（共同）

研修名	中級【コミュニケーション分野】	受講者の声		
	説明力・聞く力向上 ～円滑なコミュニケーションのために～	この研修で、話の主導権を握っているのは話し手ではなく、実は聞き手であることを学びました。 演習で講義内容を実践できたことで、少しの意識の違いで説明に大きな変化が生まれることがわかりました。		
講師	(株) 話し方研究所 ふくだ けんじ 福田 賢司	実施日数・時間	2日間	
		手法	通所研修	
		会場	自治人材開発センター	
		市町村研修コード	220～223	
ねらい	行政職員が相手のニーズに応える「コミュニケーション」を図るために、聞く力・伝える力を向上させるための手法や知識を学びます。			
対象者	<b>【県】</b> 次のいずれかに該当する職員 ・令和2年4月1日以前に採用された主事・技師・主任級の職員 ・令和4年4月1日以前に採用された主事・技師・主任級の職員で、令和5年4月1日現在25歳以上の職員 <b>【市町村】</b> 主任級以下の職員			
実施日	① 9/14(木)・9/15(金) ② 10/10(火)・10/11(水) ③ 11/16(木)・11/17(金) ④ 11/21(火)・11/22(水)			
予定人員	県80人・市町村80人（各回 県20人・市町村20人）			
学 習 計 画				
日程	カリキュラム	時間数		内 容
		時	分	
1日 9:00 ～ 16:30	相手に応じた伝え方・聞き方  相手の意図を汲み、理解する聞き方・要約  真意を引き出す質問  行政職員に「説明力」が問われる理由	6	30	・安心と信頼を与える聞き方  ・正確に聞き取る上で障害になるもの ・要約のフレーム  ・質問の目的を考える  ・納得させることを視野に入れた説明 ・聞き手に依存する話し手の存在
2日 9:00 ～ 16:30	分かりやすい説明の基本  説明の効果を高める実践スキル  まとめ	6	30	・話す前提を整える説明の基礎条件 ・話を構成する上で大切な4つのポイント  ・予告、具体例、強調、三角ロジック、冒頭戦略等 ・状況対応説明トレーニング
特記事項	・事前課題があります。 ・県職員：人事委員会事務局が実施する主査級昇任試験の受験要件となる選択研修です。県職員のみ受講後は研修効果確認レポートの提出が必要です。			

## 階層別選択研修（共同）

研修名	中級【コミュニケーション分野】	受講者の声	
	ダイバーシティ推進 ～外国人、LGBTQ、障害者等 すべての人々との共生社会のために～	ダイバーシティという言葉にここまで深い意味があり考えるべきことがあるのだと感じられ、多分野において今後の課題が発見できました。ただ業務をこなすのではなく、幅広い視野を持って課題解決しながら仕事をしようという良いモチベーションが持てました。	
講師	一般財団法人ダイバーシティ研究所 代表理事 田村 太郎	実施日数・時間	計3時間程度
		手法	動画研修
		会場	各所属ほか
		市町村研修コード	224
ねらい	外国人、LGBTQ、障害者等をはじめとした方々の多様な価値観について理解を深め、地域や組織におけるダイバーシティの推進について学びます。		
対象者	<p>【県】 次のいずれかに該当する職員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和2年4月1日以前に採用された主事・技師・主任級の職員</li> <li>令和4年4月1日以前に採用された主事・技師・主任級の職員で、令和5年4月1日現在25歳以上の職員</li> </ul> <p>なお、追加募集を行う場合は、上記以外で受講を希望する職員について職位を問わず対象者とする。</p> <p>【市町村】 主任級以下の職員</p> <p>なお、上記以外で受講を希望する職員については、職位を問わず対象者とする。</p> <p>ただし、応募者が多数の場合は、主事・技師・主任級の職員を優先する。</p>		
実施日	研修生に別途通知		
予定人員	県100人・市町村100人		
学 習 計 画			
カリキュラム	動画時間数		内 容
	時	分	
「ちがい」に寛容な社会が求められる理由	3	00	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ダイバーシティ」とは？</li> <li>持続可能な社会の形成とダイバーシティ</li> </ul>
地域におけるダイバーシティ推進の意義			<ul style="list-style-type: none"> <li>持続可能な地域づくりとダイバーシティ</li> <li>「排除」から「包摂」への転換をめざして</li> <li>多様な担い手が活躍できる地域の重要性</li> </ul>
知っておきたい分野別の取り組み			<ul style="list-style-type: none"> <li>障害者／セクシャルマイノリティ(LGBTQ)／多文化共生</li> </ul>
ダイバーシティに配慮した住民施策とコミュニケーション			<ul style="list-style-type: none"> <li>住民施策におけるポイント</li> <li>コミュニケーションにおけるポイント、手法</li> </ul>
組織におけるダイバーシティ推進の意義			<ul style="list-style-type: none"> <li>持続可能な組織づくりとダイバーシティ推進</li> <li>ダイバーシティ推進のための3つの視点</li> </ul>
ダイバーシティを活かした組織運営の方法と課題			<ul style="list-style-type: none"> <li>「2つの誤解」と求められる「3つの多様性」</li> <li>異文化理解とコミュニケーションの視点</li> <li>行政に期待される3つの側面</li> </ul>
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前課題、事後課題があります。</li> <li>県職員：人事委員会事務局が実施する主査級昇任試験の受験要件となる選択研修です。県職員のみ受講後は研修効果確認レポートの提出が必要です。</li> </ul>		